

# 聴く

新潟いのちの電話だより

2017.12

No.135

相談電話

**(025) 288-4343**

上越(025) 522-4343

長岡(0258) 39-4343

新発田(0254) 20-4343

村上(0254) 53-4343

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa-net.jp>



## 夢に向かっての一步一步

高橋竹育

2003年、芸名「高橋竹秀」から本名「小林史佳」に戻ると聞かされました。突然のことでした。正直、不安もよぎりましたが、覚悟の決断を信じることにしました。本当に本名でお客さまを呼べるのかと、周囲からはいろいろ声もある中でのスタートでした。

初めて本名で作曲した「ROOTS・TABIBITO」をリリース、そして三味線の楽器としての新たな可能性を追求し、2006年には弦楽四重奏との融合に取り組みました。この頃から毎年、リハーとびあコンサートホールでの新春コンサートを開催することにもなりました。

この姿を見て、私の考えていた以上に凄い力を持っていると確信しました。決して心の病気が完治したわけではなく、時々考え込んでいることもあり、(大丈夫かな…)と、心配も度々ありましたが、好きな道なので、なんとか乗り越えることができると信じていました。プロの道はずっと孤独で大変な道のりだと思いますが、第二の人生を三味線にかけた息子の姿を見守っていこうと思いました。

そして息子は、フランス、ニューヨーク、シカゴ、ドイツ等、世界へ飛び出し、自分の想いを伝え、実現させてしまいます。そのおかげで、私も何度か共に公演させていただくこともありました。やはり百聞は一見にしかず、本物に触れてみることの大切さを実感したものです。私の考え方も変化してきて、今では息子に感謝しています。息子が戻ってこなければ、一生、海外での演奏なんか経験できないことだったので…。

息子が戻ってきてから19年目に入りますが、あっという間に年月が流れた気がします。私も一緒に仕事をするのが度々あり、病気をする暇もなく三味線に携わっています。真面目に向き合っていれば、助けてくれる人もあり、夢も叶います。これからも精進して、感動を与えられる演奏家であってほしいと願っています。

(三味線演奏家・新潟高橋竹山会会主)

## ある日の相談室より

「今日は調子が悪くて」

沈んだ声でぼつりぼつりと話し始める。

「…かなりよくなったんだけど調子の悪い日もあって」

うつで1年ほど休職しているという。

高校生のころ摂食障害になった。治療はつらかったが乗り越えて、介護施設に就職することができた。

「うちにおいちゃんがいる、お年寄りが好きなんです。だから就職できたときは本当にうれしかった。うれしくて頑張りすぎたのかもしれない」

2年ほど勤めたが体調を崩し、休職した。

それでもかなりよくなって、今は洗濯や草取りなど家の仕事をしている。

でも今日は調子が悪くて動くことができない。動けない自分が情けない。主治医も家族もみんなが「もう少しだよ」と言ってくれる。普段は自分でもそう思うが、今日みたいに調子の悪い日はその「もう少し」が辛い。

「もう少し、もう少しして、何がもう少しなんですか。こんなに動けないのに。なんにもできないんですよ」

「高校の時は摂食障害。やっと就職したと思ったら休職…家族は『また?』と思ってるでしょうね」

ひとしきり話すと、ふと違う話題になった。

「来月、おいちゃんの誕生日なんです」

お祝い会をしたいのだという。

「どうしたらおいちゃんが喜んでくれるか考えているんです。今日はまだ体調が悪くて考えられないけど…お祝い会、できますよね」

調子の良い日も悪い日もあるけれど、お祝い会に向かって一步一步進んでいけますようにと願いながら受話器を置いた。

(内容は、電話を基に構成し直したものです)



## 各々のストーリーで

布施直美

最近、私が観た海外ドラマで面白いものがありました。ある事件を発端に、主演の男女それぞれが警察から事情聴取を受け、回想録のように出会った頃から振り返るといった内容です。中身自体は特に大したことないのですが、その構成が変わっています。

同じ出来事を前半30分は男性側から後半30分を女性側から、それぞれの頭の中の記憶をもとに2部仕立てで語られます。ですから、服装や髪形、セリフなど、前半と後半では異なっていて、お互いの微妙な受け取りの違いなどが事件と面白く絡んでいく展開です。同じ体験であるはずなのに、人が違うところも違うのかと思うほど対比して描かれ、また記憶とはこんなに不確かで、危いものなのかと驚かされます。

このドラマほどではないですが、同じ出来事を異なったように思い出すこと、友人や家族との間でも時々ありますよね。自分を通し記憶されている心の中の出来事として、それぞれのストーリーで記憶され…。「人の話を聴く」とは、

この海外ドラマのように『その人バージョンのエピソード』を聴いていくことなのかなあと思ったりします。

その人にとっての事実がいかにか人によって異なるのか…自分の聴く姿勢についてふと考えさせられる時間でした。

(臨床心理士)



毎月10日(午前8時より翌日午前8時まで)は  
フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」が実施されています。  
電話番号 0120-783-556

## お知らせ

### ご支援に感謝いたします

9月23日、チャリティバザーを開催しました。ご寄付いただいた品やお花の販売、喫茶コーナーなど、たいへん盛況でした。

後援会の皆さまをはじめ、たくさんの方々のご支援のおかげです。ほんとうにありがとうございました。

### 新潟いのちの電話 公開講座

日時 2018年2月16日(金)

18時30分～

会場 新潟市音楽文化会館

新潟清心女子中学・高等学校  
ハンドベル部、合唱部の演奏と、  
いのちの電話についてのトークを予定  
しています。

あたたかく、澄んだ音色と歌声を  
お楽しみください。

いのちの電話の活動についても、  
ご理解いただけると嬉しいです。

ご来場をお待ち

しております。



### 第36期ボランティア相談員募集

1984年に開設して以来の相談件数は60万件を超えました。けれども近年、聴き手(相談員)不足が深刻です。一緒に活動する仲間を募集します。

申し込み期間

2017年12月1日～2018年2月28日

研修期間

2018年4月～2019年3月まで1年間

原則として毎週木曜日、

18時30分～20時30分

年齢 23歳から66歳まで

受講料 年間3万円(一部補助することがあります)と一泊研修の実費

募集要項など詳しくは、ホームページ  
をご覧ください。事務局にお問い合わせ  
ください。

### クリスマス・歳末募金のお願い

センターの維持費、相談員の研修  
など、いのちの電話の活動のために、  
皆さまのご協力をよろしく願っています。

2017年12月1日発行

社会福祉法人 新潟いのちの電話

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-3 新潟ユニゾンプラザ ハート館  
事務局 TEL (025) 280-5677 FAX (025) 280-5677  
ホームページアドレス <http://www.ni-denwa.jp>

12月の絵手紙



Sakurai Kouji